

# 新しいスピントロニクス材料と物性

**日時：2019 年 9 月 19 日 (木) 13:30 ~**

スピントロニクスは、新材料の創製や新現象の発見により飛躍的な発展を遂げてきました。その過程において、以前は金属スピントロニクス・半導体スピントロニクスとして細分化されていた研究も、現在ではその垣根がなくなり、同時に取り扱う材料も多様化しています。本シンポジウムでは新材料創製分野において第一線で活躍される研究者をお招きし、新しいスピントロニクス材料の現状と将来展望、付随する物理現象やその機能性について講演頂きます。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

## 招待講演者

谷山智康 (名大)：界面マルチフェロイク材料の創製とその機能応用

Le Duc Anh (東大)：n型およびp型 Fe 系強磁性半導体  
— 高いキュリー温度の実現とヘテロ構造デバイスへの展開

若林勇希 (NTT)：単結晶オスミウム酸化物薄膜における 1000 K 以上の強磁性絶縁状態

森山貴広 (京大)：反強磁性スピントロニクス

Pham Nam Hai (東工大)：トポロジカル絶縁体・磁性体ヘテロ接合における巨大なスピン軌道トルクとその起源

笠原裕一 (京大)：磁性絶縁体における創発マヨラナ・フェルミオン、非可換エニオン

竹谷純一 (東大)：高移動度有機半導体のスピン緩和

企画：応用物理学会スピントロニクス研究会 <https://annex.jsap.or.jp/spintro/>

世話人： 関 剛斎 (東北大)、小野 輝男 (京大)、揖場 聡 (産総研)、  
田中 雅明 (東大)、三輪 真嗣 (東大)、柳原 英人 (筑波大)